



高小だより

津市立高茶屋小学校
平成30(2018)年2月
文責：校長 伊庭 正彦

来年度から英語の時間が増えます

グローバル化の進展の中、英語によるコミュニケーション能力は、これからの子どもたちにとって必要な能力になりつつあります。このような中で、「使える英語力」を育成するために、小学校から大学入試までの一貫した英語教育の改革が進んできています。そこで小学校でも平成32年度(今の3年生が6年生になる時)から実施される新しい学習指導要領において英語が拡充されることになりました。



津市でも平成30、31年度を移行期間として平成32年度の本格実施に向けて段階的に取り組んでいくことになっています。

本校でも、来年度は下記のように外国語活動等を実施する予定です。

	今年度まで	平成30年度
3、4年生	外国語活動 (学期に3時間程度)	外国語活動 (年間15時間に増加)
5、6年生	外国語活動(年間35時間)	今年度分に新しく外国語科(英語科) を年間15時間追加、合計50時間に

来年度の増加分は、総合的な学習の時間(年間70時間)をあてることができず、来年度の授業時数全体の増加はありません。

(1、2年生は、年間数時間の外国語活動を予定しています。)

外国語活動と外国語科(英語科)のちがいは?

外国語活動は、「英語の音に慣れ親しむこと」「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度を育てること」などを目標としています。英語を使うことに親しむのがメインとなります。したがって「聞くこと」「話すこと」を中心とした次のような活動になります。



- ・表情やジェスチャーの大切さを知り、感情や状態を表す語や表現に慣れる。
- ・様々なあいさつの言い方に慣れ親しむ。

それに対して、外国語科(英語科)は発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、「英語のスキル(技能)」を育成するために教科としての学習を行います。具体的な内容には、次のようなものがあります。

- ・好きなものや欲しいものについて尋ねたり答えたりする表現がわかる。
- ・自己紹介に関する表現や文字の音がわかり発音する。
- ・好きなことやできることについて基本的な表現を読んだり、簡単な語句を書き写したりする。

小学生のときに「英語を楽しい」と感じた経験が、中学・高校、そして社会に出てからの英語への積極性につながります。子どもたちにとって、楽しい「外国語活動」、楽しい「英語科」になるよう工夫していきたいと思えます。